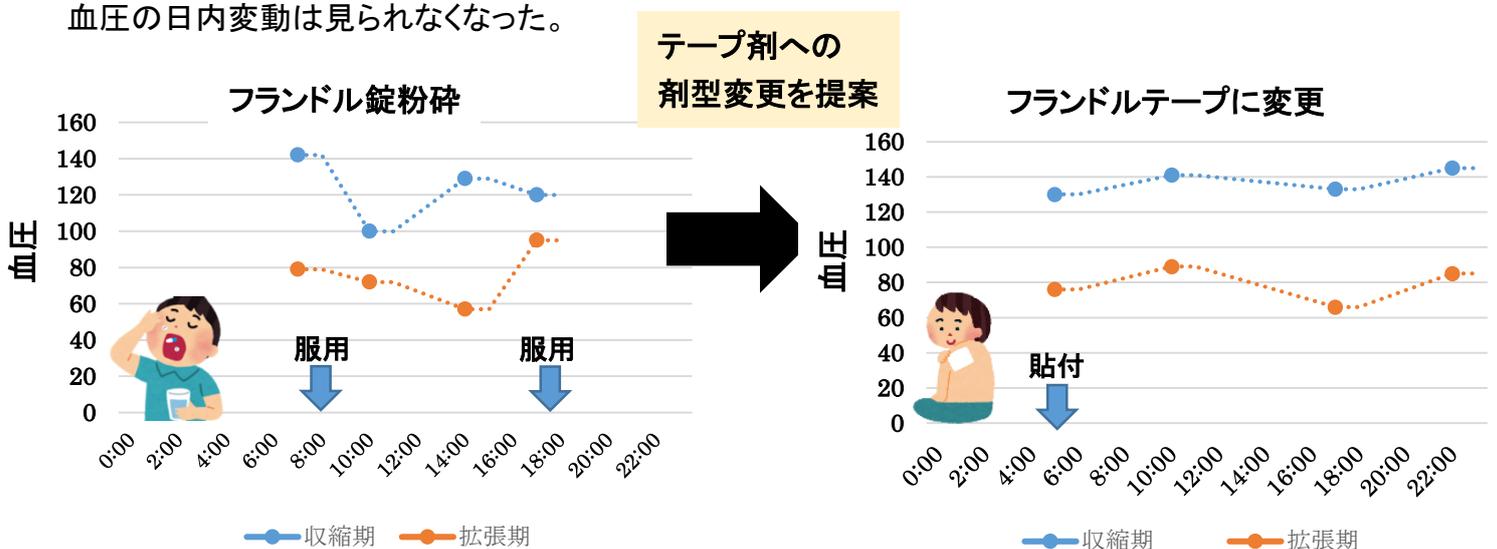


## 剤型変更の提案による副作用の回避

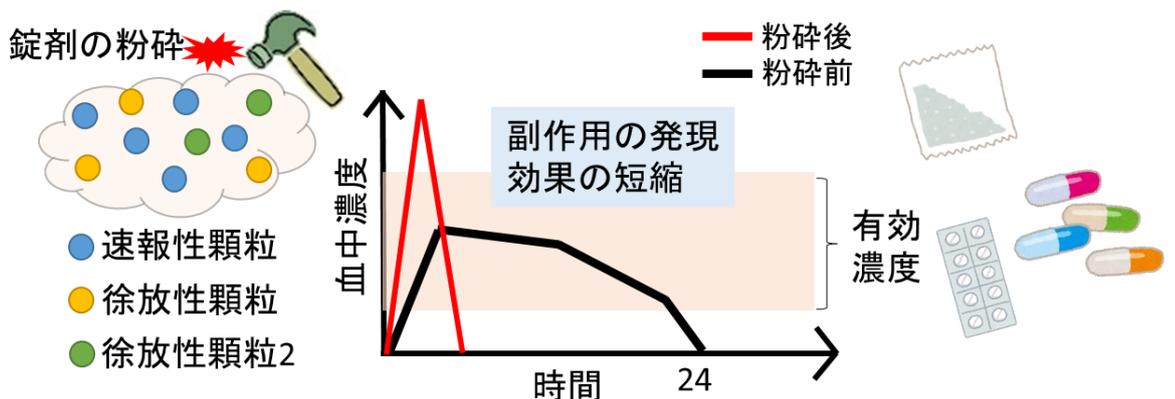
プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益(副作用、相互作用、治療効果不十分など)を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は徐放錠の粉碎をした結果、効果が安定しなかったが、薬剤師の剤型変更の提案により剤型が変更となり、症状が安定した症例を紹介します。

### 【事例】

脳梗塞に対して精査加療目的にて入院中の患者の**フランドル錠が病棟にて粉碎して ED チューブより投与されていた**。患者の血圧の低下など日内変動が見られていた。フランドル錠粉碎は急激に血中濃度を増加させる可能性もあるため**フランドルテープへの変更を提案したところ、提案通り変更となった**。その後、血圧の日内変動は見られなくなった。



徐放錠は薬の放出を制御することで、薬の効果を持続する製剤工夫の一つです。徐放錠の粉碎は製剤の徐放性を消失させ、最高血中濃度の増加、効果の短縮、副作用の発現を引き起こします。



当院採用薬の中でフランドル錠以外にも粉碎ができない錠剤(徐放錠)があります

- マトリックス型: スローケー錠、デパケン R 錠、リスモダン R 錠
- コンチンシステム型: オキシコンチン錠、MS コンチン錠、ユニフィル LA 錠
- スパスタブ型: テオドール錠、フランドル錠
- ロンタブ型: ニフェジピン CR 錠 など